

条件文と条件表現の体系的研究：序章

田 中 寛

Systematic Study on Conditional Sentences and Conditional Expressions : An Introduction

TANAKA Hiroshi

1 はじめに

条件文とは条件節と主節とからなる文のことで、条件表現とはそれらの形式による広義の表現体系をさす。これらは一般に現実と非現実、現にあることと現にないことの対比において、事態の帰趨に言及する言語形式、言語表現であるが、その内実はきめ細かく区画、細分され、個々の記述はおよそ人間のあらゆる言語活動を内包している。形式においても発想においても重層性ととも複合性をはらんでおり、複文のなかでももっとも複文らしい形式と意味、機能の体系を備えた表現ともいえよう。テキスト的な研究に関心をもたれるのも、こうした特徴的背景によるものと思われる。

いま、ここで日本語の条件文、条件表現の一般性・普遍性、および個別性を解析して体系化するにあたり、複文における条件とは何かをまず掘り下げてみる必要がある。複文は人間の言語表現の高度な論理化においてきわめて有用な手段である。なかでも私たちの言語世界は寸時たりとも「条件」という概念、言表形式を抜きにしては考えられない。したがって、さまざまな内容、態度を連結する装置として、この表現体系におよぶ領域は錯綜しており、自然言語を対象にすればなお説明不十分な課題も多く残されている。

研究に先立って、まず何をもって条件文、条件表現と称するのか、という基本を確認しておきたい。一般に条件文といえは、「タラ」「ト」「レバ」「ナラ」の主要な四形式があげられる。おおかたの研究もこれに焦点をあてて進められてきた。しかし、これを中核とすれば、その周辺には「テハ」の弱条件、あるいは既定主観条件、「テモ」および「トハイエ」、さらに「ヨウガ」、「テデモ」、「テマデ」などの譲歩（逆条件）、「トコロ」「限り」「以上」、などの個別的な条件形、「トイエバ」「トナルト」などの後置詞型条件形の用法があげられる。また、本論では対象の外に置かれるが、条件という概念を条件<P>と帰結<Q>という大枠で大きく切りとれば、一般に原因理由表現「カラ」「ノデ」「タメニ」など、また目的表現「タメニ」「ヨウニ」「ノニ」なども含

めて考える見方もある¹⁾。

さて、これまで日本語の条件文・条件表現については実に夥しいほどの研究が蓄積されてきた。そのどれもが一般性・普遍性、個別性を検証するうえで貴重な示唆をあたえるものではあったが、発話意図を中心にいまだ解明不十分な領域もまた少なくない。筆者もまた田中（2004a）などで現時点での研究をふまえた見解をしめしたものの、なお連文的、テキスト的な発話意図（例えば待遇的意図、ポライトネスなど）に関していえば、多くの課題を残している。

このたびあらためて条件文、条件表現の体系的研究を目指すにあたり、本稿ではその序章として、条件文・条件表現の輪郭を明らかにしておくことからはじめてみたい。

2 条件文と認知

条件文、条件表現という〈条件〉とは何をもって定義すべきであろうか。言い換えれば人は何をもって〈条件〉と認知するのであるか。また、そこからいかなる文脈を展開しようとする意図をもつのだろうか。個々の条件形式の記述研究はその原理の仔細を解明するのが目的であるが、ここでは一般に〈条件〉と捉えられる本質、認識のシステムが、言語活動にとっていかなる意味をもつのかを考えてみたい。

囲碁、将棋、オセロなど、二人がペアになって遊ぶゲームがある。たとえば「フォー・イン・ア・ロウ」(Four in a row) を例にとれば、それぞれ23個の赤と黄色の丸いチップスを交互に並べていき、四つどの方向からでも先に並べたほうが勝ち、という簡単なゲームである。だが、ここには先を読む勘を働かせないと勝負にならない。年少者ほど、このゲームに強いことが経験的にも理解される。できるだけ純粋に神経を集中した状況ではこの展開がよく見えるのだろう。年少者は可能性の選択という点では比較的容易に焦点を絞り込むことができるの対し、大人の認識世界ではあらゆる可能性の想念が錯綜し、整理するのが一苦勞、といった状況も珍しくない。これらのゲームには条件の整理、選択・淘汰という人間の原初的、本質的な認識活動が象徴的にあらわされている。「こうすればどうなるか」「そうすればこうなる」といった判断は、状況認識にとって基本的な装置である。

ところで、次のような質問があったとしよう。

問1 浦島太郎はどうしてお爺さんになったのでしょうか。

問2 織田信長が生きていたらどうなったでしょう。

いじわるな問答の世界では、次のような発想にもとづく応答も可能であろう。

答1 浦島太郎は男だったから。

答2 日本の人口が一人増えていた。

だが、一般にこの応答が現実的（常識的）でないことは明らかである。答えには質問に答えるべき正当な背景（これを「逸脱的応答」に対し「通念的応答」と呼んでもよい）がなければ正常な

談話の流れとして成立しないだろう。つまり、質疑応答は常識的にみて整合性のあるものでなければならぬ。

答1' 開けてはいけない箱を開けて、白い煙をかぶったから。

答2' それからの歴史が変わっていた。

一方、次のような伝達文、指示（警告）文を考えてみよう。

- a. 危険ですから、駆け込み乗車はお止めください。
- b. ドアが閉まります。ご注意ください。

私たちはこれらを日本語の普段の表現として受け入れ、そこに特別な違和感を感じるということはないが、ひとたび外国に生活し、あるいは外国語と対照させ、または外国人の言語（母語）感性から見た場合、情報の提供、管理においていくつかの断層を感じざるをえない。これらの文において、それぞれ二つから構成される複文（接続成分をもたない b. を意味上の連文と称することもある）において、場合によっては前文を既知情報、共有前提と見なして、下線部分を省略した情報だけで十分に機能しうる。

また、次のようなアナウンスを比較してみよう。

- a. ホームと電車の間が狭くなっております。乗り降りの際はご注意ください。
- b. Please mind the gap between train and platform.

（電車とホームの隙間にご注意ください）

a. は日本の地下鉄などで、b. は英国ロンドンの地下鉄で観察されるものである。b. では複文的な情報が含意され、日本語よりもコンパクトな表現になっている。日本語では見れば分かること、考えれば分かる自明なことを、あえて言語化しているという印象を受ける。たとえば「狭くなっている」から注意するのであり、「乗り降りの際は」は提示するまでもない情報である。日本語で示した点線部分はいわば既知的、前提的な共有認識の情報である。

- c. 「ドアが閉まります。ご注意ください」
- d. Stand clear of the doors, please. (stand の代わりに keep を用いることもある)

この双方を比較してみても、日本語では前文と後文を原因理由と指示との関係で伝達しているのに対し、英語の表現では直訳すれば「ドア附近をきれいにしてください」、つまり、何もそこに障害物を置くな、という指示だけで済ませている。あるいは分詞構文を用いて

- e. Obstructing the doors can be dangerous.

のように、日本語に置き換えれば「ドアを妨害することは危険です」というむしろ単文的な構造で簡潔な情報伝達を果たすこともある。これなども日本語では

- f. ドア附近に荷物を置きますと、お客様のご迷惑になることがありますので、ドア附近には荷物をお置きにならないようお願いいたします。

のように、相応に長い文によって伝達されることも珍しくない。このように日本語と英語を身近な場面で対照させてみても、文や談話の生成にあっては、情報伝達をいかに効率的に、また中心

内容のほかに聞き手目当てにどのような附加的内容をとまうか、といった言語習慣が大きな背景となっていることに気づかされる。

このように考えてみると、条件という認知活動は、ある事態の談話的展開と意思の疎通を円滑にする、あるいは再確認するための言語手段と意義付けられる。ここでは前提とそこから導かれる通念的な帰結の確認、提示が具体的に行なわれていることが確認される。条件表現の考察にあたっては、こうした中心、核となる成分とその背景、前提としての情報の提供、導入のプロセスにも留意しなければならない。

3 主要条件形式の意味機能

条件文の主要な四形式として「タラ」「ト」「レバ」「ナラ」の各形式がある。ここではそれぞれの主要な用法を挙げ、従来の見解を確認・補随するとともにその固有の意味機能を再検討してみることにはしたい。個々の構文形式についてはなお詳細な議論、一般的・個別的な記述が必要であるが、ここでは輪郭を記すに留める。

3. 1 「タラ」形式

条件文のなかでももっとも条件文らしさを備えたもので、聞き手目当ての心的態度も明白である。したがって、意志的でかつ感情的な突出度をもっとも高い形式ともいえる。

- (1) ミルクを飲ませて、おしめを替えておいてくれたら、二時間ぐらいなら自分でもお守りができるだろう。(讀賣04.6.15)
- (2) 充実した笑顔を見せられたら、期待するなというのは無理な話である。(讀賣04.5.28)
- (3) こんな時期に、再処理工場でテロや大事故でも発生したら、核燃料サイクルの見直しは避けられない。(讀賣04.6.18朝刊)
- (4) 「じゃあパパ、本当だよ。指切りゲンマン、嘘ついたら針千本吞ます」
(「愛のごとく」)
- (5) 日本の弁護士はテレビに出演できそうな事件が起きれば、いち速く駆けつけ、この事件ならば人権を楯にして顔と名前を売れるという感覚はそれこそ獵犬並みで、食らいついたら離さない。(「仮面の国」)
- (6) 「だまってないでいい加減、吐いたらどうなんだ」「早いとこ吐いて楽になったらどうだ」
(讀賣04.9.15「コボちゃん」)

「タラ」には(4)、(5)のように、非現実的な仮想を述べて、あるまとまった表現をなす用法もある。(6)は話し言葉に見られる顕著な働きかけの用法である。次は動詞の反復をもって将来の可能性の生起を示唆する言い方である。

- (7) 娘は遊びに行ったら行ったで、何時に帰ってくるかさっぱり分らない。

なお、「行ったら行ったで」の形式は「レバ」「ナラ」でも見られる（「行けば行ったで」「行ったなら行ったで」）が、「ナラ」のほうは後述するように独自の意味機能をもつ。

「タラ」形式は口語的である点がまず特徴とされる。それだけに一般性が高く、上述のように後文にはさまざまなモダリティを含む後続句表現の生起が可能である。また、敬語形式も比較的多くあらわれる。

(8) 次の駅で降りる方がいらっしゃいましたら、お知らせください。

次のようなやや定型化した言い回しでも、聞き手を意識した直接的な発話であり、感情の隆起・突出が相応に大きいことが了解される。

(9) a. 彼が知らないとでも思ったら、大間違いだ。

b. 一步間違ったら、とりかえしのつかないことになる。

慣用的な「タラ最後」は結果事態の確実な招来をあらわす。

(10) 「アメリカは金輪際、この南朝鮮を放しませんよ。放したら最後、極東はソビエトのものになると信じこんでいますからね」（「北の詩人」）

古い言い方では「タが最後」「ルが最後」とも用いられる。

(11) 吾輩はいつでも彼等の中間に己を容るべき余地を見出してどうかこうにか割り込むのであるが、運悪く小供の一人が眼を醒ますが最後、大変な事になる。（「吾輩は猫である」）

また、「タラ」にはいわゆる反実仮想と称される次の用法が見られる。

(12) もしあなたがあの時助けてくださらなかつたら、私は路頭に迷っていたところでした。

主文文末には「タところす」「ルところでした」「テイタところでした」などの特徴的なテンスの叙述が見られる。主文には「(路頭に迷わ)ずに済んだ」という説明が含意される。この文意は一方で「から～のだ」形式によってまた裏の実質条件をも強く押し出すものである²⁾。

(13) あなたがあの時助けてくださったから(こそ)、私は路頭に迷わなかつたのです。

3. 2 「ト」形式

「トンネルを抜けるとそこは雪国だった」にあらわされるような「ト」の用法は、これまで<発見>という意味で説明されてきた。

(14) ある朝、グレゴール・ザムザが何か気がかりな夢から目を覚ますと、自分が寢床の中で1匹の巨大な毒虫に変わっているのを発見した」（フランツ・カフカ「変身」）

しかし、これはあくまで「ト」が<結果事態>の招来をあらわすことが多いということで、「タラ」にも同様の意味が看取される。むしろ、次の<展開>、<継起>という意味のほうがより本質的な意味として重視されるべきだろう。

(15) 実際私は、兄ももちろんそうだったが、学校から帰ると、日がな山の鳥を獲ることであけられていた。（「母一夜」）

(16) 身元不明の死体が発見されると、警察はまず届出のあった家出人や失踪人との照合から

捜査を始める。「死よりも遠くへ」)

- (17) 巨人は九回にローズの本塁打で追いつくと、さらに二塁満塁として代打江藤の左越え安打で今季6度目のサヨナラ勝ち。(讀賣04.9.2)

次に、「ト」には習慣、感覚(生理的反応、体謝など)をあらわすものがある。

- (18) a. 冷たいものばかりを飲むと体に悪い。
b. リンゴをかじると血が出ませんか。
- (19) 林和は指先に触れると全身に悪寒を感じそうな冷たい壁について表側に回った。

(「北の詩人」)

「ト」は(19)では「指先に触れると全身に悪寒を感じ(る)」といった、まとまった習慣的な感覚、反応をもあらわしている。次も「モノダ」が一般的と思われる傾向を示唆している。習慣的、慣例的な規則事態をふまえたものである。

- (20) 「少女に恋すると、頭の形まで少年風にしたくなるものかな？」(「砂の上の植物群」)

「ト」形式はまた警告、注意喚起という点でも特徴が観察される。

- (21) 気をつけないと、途中で挫折しますよ。(「北の詩人」)
- (22) あんまりガメついと、そのうち“錢ゲバ”なんて呼ばれちゃいますよ。

(「週刊新潮」04.6.3)

- (23) 「さあ、早くしないと、エリちゃんが迎えにくるわよ」(「愛のごとく」p.33)

- (24) a. 駆け込みますと、危険です。(構内アナウンス)
b. 志望校を早く決めると成績が上がる。(予備校の広告)

これらは、「ガメツくするな」「駆け込むな」「志望校を早く決めた方がいい」「早くしなさい」といった指示、助言を内包している。また、次のように仕組み、性質をあらわす³⁾。

- (25) 硝酸アンモニウム：常温では無色の結晶で210度の高温に達すると水と窒素酸化物を発生して分解する。また有機物と混合したり急速に加熱したりすると爆発を起こす。

「トイウガ」のように引用形式をとって一種の前置き表現となることがある。

- (26) 「運転すると性格が変わる」といいますが、ゆとりの持てない運転は事故にもつながります。(讀賣04.6.18)
- (27) 「ハンドルを握ると人格が変わるとよく言われるが、文明の利器は神器と凶器の二面性を持ち合わせていることを忘れてはならない。(讀賣04.9.2)

「ト」形式には次のように二重の「ト」形式もまれに見られる。最初の「ト」は主題の設定をあらわし、「(の) 場合 (は)」のように置き換えたほうが分かりやすい⁴⁾。

- (28) 地盤が弱い所だと、すぐに耐震診断、補強をしないと生命に関わる。(讀賣04.6.18)

次のように「レバ」(<大条件>)に「ト」(<小条件>)が包摂されるような局面も生ずる。

- (29) 同小のような学校を「地域運営学校」と呼ぶ。作るかどうかは教育委員会の判断だが、地域の要請があれば、合理的な理由がないと拒めない。(讀賣04.6.18)

主文文末には「コトニナル」「ヨウニナル」といった変化表現によって個別的な結果が表示されることも少なくない。これも「ト」形式が発生を強く意識する特徴と関係がある。

(30) 見つかった用紙には一部の通話記録しかなかったが、用紙には通し番号が付けられており、これをもとに計算すると最悪で百四十万件分の通話記録が流出したことになる。

(読賣04.6.18)

(31) NSCCの事業は自分が創業したのだったが、一度滑り出してしまうと事業が逆に本人を規制するようになったのである。(朝日04.4.6)

(32) 「過去をきちんと知らないと、日本は再び同じ誤りを犯すことになる」。小田さんは「学校がある限り、旅を続けます」という。(朝日04.4.6)

「コトニナル」は前件の内容が後件の内容に直接、間接に繋がる、といった可能性を示唆する。

(33) 血糖値が高いと血管を傷め、神経障害や網膜症などの合併症につながる。(読賣04.4.25)

「カネナイ」「恐レガアル」のように可能性を抑えた言い方も見られる。

(34) 学習指導要領を無視し、中学、高校で学ぶべき内容を小学校で教えると、性に関する恐怖感、嫌悪感を子供に植え付けることにもなりかねない。(読売04.4.14)

「ナイト」は通常、主文述語に「ナイ」を要求する。

(35) カーテンを閉めないと、プライバシーが保てない。(日経04.7.2)

(36) 今ここで手を打たないとアジアを引っ張る国として、その責任を果たせなくなる。

(朝日04.5.5)

「ナイト」を受けて、同様に「恐レガアル」「カネナイ」が共起する場合もしばしば見られる。

(37) 鑑定人がネット社会を理解していないと間違った鑑定結果を導き出す恐れがある。

(読賣04.6.15)

(38) 米国並みに学生本人が教育ローンを借り、将来、就職後に返却する制度を充実させないと、あまりにも親に負担をかけすぎる。日本経済の足を引っ張る要因にさえなりかねない。(読賣04.6.18)

次は「ナイト」は主文をこえて、後続の連文の文末にかかっているケースである。

(39) 昨年サミットで北朝鮮を非難する宣言を出したが、今年も出さないと、G8の懸念が薄らぎ、態度が軟化したと誤解をあたえかねない。(読賣04.5.28)

かならずしも「ナイト」が主文に「ナイ」をとみなわないケースもある。

(40) メジャーは球場によって千差万別。フェンスがないと、見るほうは開放感を味わえるが、選手にしてみればボールと観客が重なって見える。(読賣04.5.7)

(41) 企業体質が変わらないと、法律ができて意味がない。(読賣04.6.15)

「ト」形式は現場性、眼前の現象的な観察にもとづくケースがほとんどで、「タラ」に見られた反実仮想的な言い方は一般になされない⁵⁾。

(42) *あなたが助けてくださらないと、私は路頭に迷っていました。

cf. あなたが助けてくださらないと、会社は倒産してしまいます。

3. 3 「レバ」形式

前件と後件の結びつきにおいて、偶有性よりも必然性が話し手の経験的な内省において強く見られるものがこの「レバ」形式である。

(43) 「去年盛りあそば、今年花なかるべきことを知るべし」(世阿弥「風姿花伝」)

「レバ」は古典語においても必然的、当為的な帰結を主文にうながす点で前件と後件との結びつきが強いものである。たとえば、(43)は能楽論の一節で、前回盛んだった勢いが今回はそうではなくなる(もあること)を知るべきだという教で、元来「レバ」にはこうした訓話・訓戒的な言辞を垂れるものが多い。それは他の条件形式と比較して、論理性が強く、それだけ経験に裏打ちされているとも言える。「ト」が〈個〉の現象に焦点をあて、コト的な意味をあらわしたのとは対照的に、「レバ」はモノ的な判断が特徴的である。

次は漫画の吹き出しにあらわれた「レバ」と「ト」である。

(44) 「画面がだいぶよごれたな」

「オー、みちがえるようになったぞ」

「やっぱなんでもふけばきれいになるもんだな…」

「あーそうですか、どうせ私は化粧をふくときれいじゃなくなりますよ」

「そういうつもりじゃ…」

(讀賣04.5.11「コボちゃん」)

「レバ」では「何でも…ものだ」という一般的な結論が、「ト」では「私は」という個別の私的要件が述べられている。「レバ」と「ト」の対照的な性格をあらわしている。

「レバ」は論理性の高い条件文で、書き言葉、それも論評など硬い表現において好まれる。「ノダ」は「ノデアレバ」の形となる。

(45) 同社はハブの強度不足を認識し、必要な対策を怠れば同様の事故が起きることを予見できた可能性があるとみている。(朝日04.4.6)

(46) 「真意を理解できないのでコメントを控えたいが、私どもに向けられているのであれば、きちんと考えなければならない」(讀賣04.5.14)

「思えば」「早ければ」は副詞的条件句で、事態のある種の蓋然性や可能性をあらわす。

(47) ロシア政府筋が十七日、語ったところによると、北朝鮮の金正日総書記は早ければ今月末にもロシア極東を訪れ、プーチン大統領との露朝首脳会談を行う見通した。

(讀賣04.6.18)

「思えば」「考えてみれば」「振り返れば」なども前文にちなんでの話題転換や話し手のある種の回想、感慨をあらわす

(48) 思えばわたしの外出は、いままで人事が中心だった。(「図書」03.11)

「レバ」が対比的に連続して用いられることがある。

(49) 風が吹けば板がこいを見回り、雨が降れば土の流れることを心配する。(「強力伝」)

「彼は酒も飲めばタバコも吸う」のように「モXレバ、Yモ」形式は連文的性格をもって、実質的には「XシYシ」の並列文の様相を呈する。

(50) 林和の胸にはまだ現実がこなかった。話はたった半時間かそこいらの間に決まったのである。彼の一生を決める仰々しい儀式もなければ物々しい雰囲気もなかった。

(「北の詩人」)

同一動詞を用いた「VレバVホド」は一定の行為、状態の比例関係をあらわす。

(51) 彼が避ければ避けるほど、それは頻繁に彼を独占し、執拗に纏わりついた。

(「砂の上の植物群」)

「Vサエスレバ」はまた「NサエVレバ」の形でもあらわれ、限定必要条件をあらわす。

(52) この背負子が手に入りさえすれば、あの五十貫の巨石は白馬の頂上に持ち上げることができる。(「強力伝・強力伝」)

(53) ケータイさえあれば社内で現金は不要なうえ、ケータイの画面で利用明細を確認することもできるため、社員に好評だという。(読賣04.6.18)

同一動詞の反復による「VレバVデ」の形式は前述「VタラVデ」とほぼ同じ意味をあらわす。「たびにいつも」といった、恒常条件をあらわす。

(54) 特に用事はなくても行けば行ったで、誰かが訪ねてくる。

「レバ」は「タラ」と同じように「レバのN」「レバというN」という修飾句を作る。

(55) 遺族の間には、「救援ネットワークが整備されていれば」という悔いが残る。

(読賣04.9.1)

この場合「『…整備されていたら』との悔い」のような言い方も可能である。ちなみに「ト」ならびに「ナラ」形式はこのような修飾機能が見られない。

「コソ」で強調した「レバコソ」は「カラコソ」とほぼ同じ情報をあらわす。

(56) a. 君の将来を心配すればこそ、いちいち忠告するんだ。

b. 君の将来を心配するからこそ、いちいち忠告するんだ。

前件の否定「なければ」の後続の文とのもっとも強い結びつきが「ナケレバナラナイ」という複合辞である。「ト」形式の「ナイトイケナイ」、さらに「テハ」形式の「ナクテハナラナイ」はこれに順ずるものである。「タラ」も「レバ」も現実的、非現実的な言及において同じ扱いが許されるが、「レバ」においては話し手は常に背後の認識として、経験的な裁断がうかがわれる。

なお、「レバ」にも「タラ」と同様に内省的な反実仮想の言い方も生起する。主文文末には「ノニ」「ノダ」などをとめないやすい。

(57) 僕にもう少し勇気があれば、君を幸せにできたのに。

このほか、「レバ」は「タラ」と同じように言いさしの言い方がある。「レバ」のほうが相手に対して押し付けるようなニュアンスがある。

- (58) a. そんなに病院へ行きたければ、行けば。
b. そんなに病院へ行きたかったら、行ったら。

「ト」や次の「ナラ」にはこうした言いさしの言い方は見られない。

3. 4 「ナラ」形式

「ナラ」を用いた条件文はこれまで見てきた形式とくらべて、前提情報にもとづく想定という意味で、きわめて文脈的であり、したがって単独の文というよりも文を越えた分析が必要である。たとえば、「京都へ行く」「秋がいい」という二つの文をどのような条件形式で結び付けられるか、を考えてみると、「ナラ」がもっとも一般性が高い。あとは総じて不自然な印象を与える。

- (59) 京都へ {*行ったら/*行くと/*行けば/行くなら}、秋がいい。

「ナラ」に一番近いのは「のだったら」「のであったら」ということになるが、こうしたニュアンスは異なる母語背景をもつ外国人日本語学習者の一部には理解が不十分なこともないわけではない。「ナラ」は直面する条件ではなく、「京都へ行くということを考えた場合」という条件の想定である。話し手と聞き手は「ナラ」の前に存在する事態・事象の存在非存在を問わず、一定の言及対象が必須である。

- (60) 「ごめんですむなら、警察はいらない」

しばしば「ノナラ」のように「ノ」を仲介しやすいのも「ナラ」の特徴で、「ノ」によって前掲情報の既成事実的な設定を意図している。「ナラ」は「ノダッタラ」に比較的近い性質のものである。また、「ナラ」には提題という意味機能が顕著である。

- (61) 山田さんをお探ですか。山田さんならもう帰りましたよ。

- (62) 「焼き肉を食べるなら、××が一番」

たとえば、(62)は相手(聞き手)の「焼き肉を食べたい」という情報を話し手が先取・率先して助言ないし指示をあたえる言い方である。

形式化したものでは「ナラトモカク」「ナラマダシモ」「ナラデハ」「ヨウモノナラ」「クライナラ」などがある。以下、すべてではないが、これらの特徴的な用法を示す。

まず、「クライナラ」は極端な事態を想定し、そこまでするよりは、という現状維持の姿勢をあらわす。主文文末には「ほうがましだ」などの比較表現がくる。

- (63) 彼はこの年まで生きてくると大抵のことが面倒くさく、手間ひまかけて自分の考えを通すくらいなら、かなり困惑すべきことでも相手の言うなりに通そうという欲求の方が強いのだった。(「切り取られた時間」)

「ナラトモカク」は後発の文に「からといって」などの連文的な構成を見せる。

- (64) 式を妨害したのならともかく、起立しないからといって処分する。そうまでして国旗を掲げ国歌を歌わせようとするのは、いきすぎを乗り越してなんとも悲しい。

(朝日04.3.31)

「モノナラ」は前に動詞可能形を置き、あとに同一動詞の希望・願望表現をそえる形式である。このほか、「一旦、～しようものなら」という強調の表現もある。

(65) 書けるものなら書いてみたい、と彼はおもった。定時制高校の教師をある理由でやめて、化粧品のセールスをはじめた頃だった。(「砂の上の植物群」)

(66) ひとりで引越しをやろうものなら、周到な準備と時間、体力が必要です。

反復形式「XモXナラYモYダ」は「蛙の子は蛙」式に、「どっちもどっち」といった類似的な性質の傾向をあらわす。

(67) そんなもの拾ってくる子供も子供なら、それを本気でいじっている父親も父親だわ。

(「夢を走る」)

「ナラ」は断定度が強く、次のような肯定、否定の反復形式も示唆的である。

(68) 行くなら行く、行かないなら行かない、はっきり態度を決めろよ。

4. 条件形後置詞の諸相

これまで条件形後置詞について注目して詳細な記述を行なったものに高橋(1983)をはじめ、江田(1993)などの研究がある。だが、これらの談話的な機能となると、まだ十全な研究は進んでいないようである。以下、代表的なタイプについて用例を検討する。

4. 1 「トイエバ」「トイッタラ」「トイウト」

「という」と「といえば」についてはおよそ三種類の用途が考えられる。一つは「いう」が「問う」「尋ねる」などの実質的な意味をもつ場合がある。その際は「(どうしてなどの疑問詞…か)という」といった自問自答の説明型になる。

(69) では、古館の苦境を尻目に、前任者の久米はどうしているかというと、こっちはまるでヒマをもてあましたご隠居同然だ。(「週刊新潮」04.6.3)

もう一つは、想起の用法である。「すぐに」「まっさきに」などの副詞が後文にあらわれることがしばしばである。

(70) 斎賀といえば、同志の間に名を知らぬ者はいない。この男の手でどれだけ同志が逮捕されたか分らなかった。(「北の詩人」)

(71) 「掲示板」といえば、すっかりネット上の「電子掲示板」をさすようになった。

(讀賣04.6.18)

(72) 介護保険の先進国といえばドイツが有名だが、そのドイツが制度を作る際に参考にしたのがオランダだ。(讀賣04.7.21)

(73) 夏の音というと、まずセミの鳴き声を思い浮かべる。騒々しい音とはいえ、夜になれば、静まるし、秋風とともにやがて消えていく。(朝日04.8.2)

この想起は偶然に相手の情報の一端から延長する場合の言い指しとしてもあらわれる。

(74) 「先日、渋谷でTさんを見かけましたよ。若い女性と一緒にした」

「そうですか。Tさんといえば、最近研究会に姿を見せませんね。どうしたんでしょうか」

「そういえば」は接続詞として談話的な展開において用いられる。この場合「そういうと」は非用になる。「ところで」が新規事項の展開に対して「そういえば」は前言にもとづく情報事項の展開である。

(75) ネットの掲示板を「伝言板」と呼ぶこともある。そういえば最近、駅の伝言板が少なくなってきた気がする。(読賣04.6.18)

もう一つは「といえば」にあらわれる評価の留保で、話し手の判断のつきかねるさまをあらわす。

(76) 美味しいといえば美味しいし、まずいといえばまずい。

「とよ言えば言える」は一種の容認的な表現である。

(77) しかし、考えてみれば、軍に刃向かうこと自体が気狂い沙汰とよ言えば言えるような状態でもあった。(「切り取られた時間」)

以上の用法に関して、「といたら」も皆無ではないが、使用頻度としては少ない傾向がある。反して、「といたら」の独自の用法がある。「といたら」には複合辞的な特徴が認められる。まず「といたらない」の文末詞的な言い方で、話し手の主観的な意見、非難などを表す。

(78) 合格通知をもらった彼の喜びようといったら、なかつた。

およそ言葉ではあらわしきれない感情のさまをあらわす。これは「ときたら」の題目的な用法にも属する。もっとも次のような「といたら」は実質的な意味を残している。

(79) 島の任地を希望した時も、彼が子供の時に読んだ楔形文字のローリンソンの青年時代のイメージが全くなかつたと言ったら嘘になる。(「切り取られた時間」)

「といたら嘘になる」は自問自答型の発話で、やや定型化したものであろう。このほか次のような反復形式がある。一種の主張文である。

(80) 「行くつたら行くよ」(「行くといたら行くよ」)

「(行く) といつた以上は必ず (行く)」という決意、取決めの遂行表明をあらわす。

このほか、動詞「いう」の実質性を残したものでは「からいうと」「からいえば」(「からいつて」)がある。これは「ある立場に立って判断すると」という意味で「からみると」「からすれば」などとも言い換えられる。

(81) a. 結論からいえば、TさんのほうがYさんより受かる可能性は高い。

b. 仕事への意欲という面からいうと、YさんよりTさんのほうが上だろう。

c. 環境のよさという点からすれば、ここは申し分ないところだ。

d. 発音の面だけから見れば、日本語はむしろ学びやすい言語だろう。

4. 2 「ト思ウト」「ト思エバ」「ト思ッたら」

「かと思うと」にはおよそ二種類の用途が観察される。一つは行為の対照的な継起である。

- (82) 彼女はさっきフランス料理を食べたいと言っていたかと思うと、今度はイタリア料理を食べたいと言う。

旧事態にともない、間髪入れずに生起する新事態の提示もこれに含まれる。

- (83) 空に閃光が走ったかと思うと、もすごい爆発音がした。

もう一つは事態の変化に対する話し手の心的状況である。

- (84) 今後、このように自分の過去を知られることを恐れながら生きてゆかねばならぬかと思うと、気持ちが沈んだ。(「仮釈放」)

「ことを思うと」は一種の感慨をあらわす。

- (85) 今年五月に発表されたケータイはわずか六十九グラム、指二本分ほどの大きさしかなく、携帯型の初の電話として一九八五年に発表されたショルダーホンが約三キロだったことを思うと、ウソのようだ。(讀賣04.6.18)

「(こと)を思えば」は一種の納得をあらわす気分がしめされる。

- (86) 戦時中の苦勞を思えば、このくらいの困難は何でもないはずだ。

4. 3 「トナレバ」「トナルト」

常態からはなれて、別の想定状態になった場合は、という言及形式である。

- (87) 鶏の死がいは、三年間土中に埋めることで分解されることを想定している。しかし二十万羽以上となると、地下水など周辺環境への影響が心配され、今回は土中にシートを張って埋めた。(讀賣04.6.18)

- (88) 助役になる前は国労の組合員だったが、活動歴にはとりたてて目立つものはなかった。しかし、地元平内町での地域活動となると、彼は数多くの町民の印象が強く残っていた。
(「死よりも遠くへ」)

一般的、日常的事象の呈示を受け、それと対比させるように、「一方」、「しかし」などの接続成分をとまなうことも多い。

「となると」が後文に「から」などを誘発するのも特徴的である。

- (89) 安価なものであっても見つからないとなると、余計欲しくなるから不思議である。
(讀賣04.4.25)

「そうなると」は接続成分となったものである。

- (90) もし、機会を逃すと、あなたは牢獄行きです。そうなると、誰にもあなたを助けることはできません。(「北の詩人」)

「そうなると」は「機会を逃すと」との指示的な注釈句である。余地をあたえない、切羽詰った状況をあらわす言い方である。

「Pともなると」「Pともなれば」は、「Pということにでもなれば」の意味で、一種の主題化、特殊題目提示的な言い方D、「状況がこのような事態に至った場合は」という意味をあらわす。主文には「状況が変化すればそれに応じて結果は当然そうなるはずだ」といった判断表現がくる。Pには名詞、または想定する文内容がくる。

- (91) a. 社会人ともなると、学生時代のような自由ができなくなるのは当然だ。
b. この辺りは四月ともなれば、大勢の花見客でにぎわう。
- (92) 子どもを英国に留学させるともなれば、相当な出費を覚悟しなければならない。

4. 4 「トコロヲミルト」

形式名詞「ところ」を介した「ところをみると」は、「ところをみれば」「ところをみたら」もないわけではないが、接続成分としての「ところを」「ところへ」などに見られる「ところ」の意味する瞬間的場面性と「と」の個別性、一時性との“相性”もうかがわれるが、「ところからみると」の観察・判断形式がもっとも使用頻度が高い。判断の根拠であるが、信憑性を示唆するところに特徴が見られる。

- (93) …またサイレンの音に耳を澄ました。高く低く、波打つところをみると、やはりパトカーの音ではなく、火事のようなものである。(「愛のごとく」)

「ところをみると」は「ところからみて」「ところからして」「ところからいって」「ことからして」なども含む「ところから」などへ派生する。

- (94) 酒の凍るところから見て、温度は零下二十度以下に近い寒さであろう。(「強力伝」)
- (95) 問題の性質からいって、山田がわざわざ出向いて結果を教えにくることはない筈だが、…と彼は玄関の気配をうかがった。(「砂の上の植物群」)
- (96) 警察当局では贗札の使用者が数人の党員であるところから、個人的犯罪よりも政党関係の犯罪として重視し、鋭意真相を追及中である。(「北の詩人」)

なお、「ところから」「からいって」には題目提示的な性格もあり、これらは個別の詳細な分析が求められる。

「とする」による「としたら」「とすると」「とすれば」などと一般条件形との機能的移動など、また、「ときたら」「とくると」「とくれば」などの主題提示の形式についてもその特徴的な性格の記述が必要であるが、紙面の関係もあり、割愛する⁶⁾。

以上、瞥見した後置詞条件句表現は一部、独立した個別的な注釈句表現へと発展する。注釈的、前置きの機能をなうものとして、次のようなものがあげられる。

- (97) 結論をいえば、まとめていえば、はっきりいえば、実をいえば、裏を返せば…
このなかには、「はっきりいって」などのように「テ」形形式との交替も可能である。このほか文頭注釈句として機能するものとして、

- (98) どちらかという、もしかすると、ひょっとすると、どうかすると、そうこうすると、

ともすると、ややもすると、…

などがあり、これらは「タラ」、または「レバ」に置き換えられるものも多い。これら副詞成分はまた接続的な機能としても用いられる。

5. 「テハ」による条件文

ここでとりあげる「テハ（「デハ」を含む）」は次のような附帯修飾や補助動詞の前接に見られる限定挿入の「は」ではない。

(99) 幸い、民心はまだテロリストの思い描く筋書きに沿っては動いていない。(讀賣04.6.29)

(100) 先生に会ったものの、病気の様子は聞いてはこなかった。

田中(2004a)では「テハ」を弱条件、主観条件文と意義付けた。「テハ」には従来から既定条件と反復条件の二種類の用法が従来から指摘されている。まず、既定条件から見ていこう。

(101) 平凡な日々の生活をないがしろにしては、平和で民主的な社会は実現できない、との戦争への反省が背景にあった。(朝日04.3.31)

(102) すべて、なし遂げられた今となつては、小宮が一日も早く足柄村へ帰りつくことこそ、生涯をこめて白馬の絶頂に残した石の存在意義を発見できる時にちがいない。(「強力伝・孤島」)

(103) あの残虐なフセイン体制が万が一にも懐かしがられるようになっては、イラクの人々が哀しすぎる。(讀賣04.6.29)

(104) 「問題を観念的に捉えては、実際の姿が見失われる。われわれは極めて卑俗だが、事実だけを見極めないと見直しに錯覚を起しますよ」(「北の詩人」)

(105) 是非連れて行ってやりたいが、こう悪寒がして眼がくらんでは、電車に乗るどころか、靴脱へ降りる事も出来ない。(「吾輩は猫である」)

(105)のように「こう」などの指示詞をともなうことも少なくない。「デハ」、「ナクテハ」も同様の用法である。

(106) 歩くのが億劫では、セールスマンという彼の職業は成り立たない。(「砂の上の植物群」)

(107) いつでも体を動かしていなくてはは気の済まぬような気質の父親が、なぜこういう土地に滞在しているのか、一郎には不可解だった。(「砂の上の植物群」)

概して、後文には不可避な否定的事態が招来される。このほか「テハ」で注目されるのは「ヨウデハ」「ダケデハ」など様態・取りたて成分や、「ノデハ」「トイウノデハ」などのように「ノ」「トイウノ」などの介入した「デハ」の用法である。また、後述の「カラトイッテ」とともに一種の共起的な連文をなす用法である。

(108) いくら若いからといって、徹夜ばかりしていては、体を壊してしまう。

こうした特徴についても綿密な記述研究が求められる。

もう一つの「テハ」の特徴はいわゆる反復表現である。

(109) 筆頭株主のダイムラー・クライスラー社が財務支援から手を引き、三菱自動車は苦境に立たされている。欠陥車という毒を隠しては溜めつづける愚行の招いた「毒痛み」というほかはない。(讀賣04.5.7)

(110) すぐ眼の前で、濃い口紅の唇が開きかけては言葉にならずに閉じることを何回か繰り返しているのを見て、彼は川村朝子のことを思い出した。(「砂の上の植物群」)

「テハ」を受ける主文述語には「続ける」、あるいは「繰り返す」という継続をあらわす意味の動詞がくることも多い。反復には以上の単独反復のほか、複数、並列反復といった形式が見られる。一つは「食っちゃ寝、食っちゃ寝」といった同形式の反復である。

(111) 飲もうとしては茶碗を置き、飲もうとしては茶碗を置いていると、茶の間の柱時計がチンチンチンと四時を打った。(「吾輩は猫である」)

二つ目は反復行為〈V1ではV2〉を前後入れ換えた〈V2ではV1〉の形式である。

(112) 吾輩は投げ出されては這い上がり、這い上がっては投げ出され、何でも同じ事を四五遍繰り返したのを記憶している。(「吾輩は猫である」)

(113) 私は一服しては登り、登っては一服した。ようやく頂上についた。(「母一夜」)

複合辞的なものでは「としては」、「にしては」がある。

(114) a. 親の立場としては、娘を海外留学にやるのは非常に心配だ。

b. 兄はバスケットボールの選手としては、背が低いほうだ。

「としては」は資格や立場の限定的な提示である。「としては」が名詞のみを受けるのに対して、「にしては」のほうは名詞(句)、文の双方を受ける。同じく立場をあらわすほか、当面の状況を持ち出して、その割に、という前件から当然予想される事態と大きく食い違う事態が示される。「の割には」にほぼパラフレーズすることが可能である。

(115) a. ここは都心にしては、静かなほうだと思います。

b. 近く結婚するにしては、彼女はあまり楽しそうな様子ではない。

c. 十年アメリカに住んでいたにしては、英語はあまりうまくない。

「にしては」には「ル」も「タ」、「テイタ」も見られ、テンスの制限がない。また、可展的な接続詞「それにしては」が用いられるのに対して、「としては」にはこうした接続詞「それとしては」は見られない。

6. その他の条件表現—「トコロ」「以上」など—

ここでは“準”条件形式と見なされる、各種の条件表現をみていくことにする。

「トコロ」は〈発見〉をあらわす「タラ」、「ト」と近いところで隣接している。

(116) 服に血のついた同級生の女子児童(11)に事情を聞いたところ、カッターナイフで切り

つけたことを認めた。(朝日04.6.2)

- (117) 県警高速隊などで調べたところ、車輪と車軸を連結する「ハブ」内部で二ヶ所あるベアリング(軸受け)のうち、外側のものが破損していた。(讀賣04.6.18)

意外性をより強調するもので、やや古い言いかたとして「トコロガ」もある。主文述語においては「タ」形のほか、「テイタ」形が観察される。前者はその場での情報入手、見聞であり、後者は<発見>以前にもすでに当該状況が存在していたことをあらわし、しばしば、「PところQていたことが分かった」のように判明動詞「明らかになった」「分かった」「判明した」などをともなう。「トコロ」は次のように「結果」にも隣接する。

- (118) 弾丸を調べた結果、本物の38口径の拳銃から発射されたものであることが分かった。
(讀賣04.6.25)

「以上(ハ)」は「カラニハ」とほぼ同様に、当然の帰結を要求する。

- (119) 少しずつ男が凶々しくなっていく以上、女もそれに合わせて変わっていくのは当然なのかもしれないが、今日の裕子はとくに怠けもののようである。(「愛のごとく」)
- (120) わたしは朝鮮の歴史を研究しました。やはりこちらに勤務している以上、それは必要ですから。(「北の詩人」)
- (121) 「だが、はっきりと敵の正体を知った以上、われわれは倍以上の報復と敵意に闘志をわかすことだ。…」(「北の詩人」)

参考までに「カラニハ」も一例挙げておく。「以上」とくらべてむしろ「仕方なく」「止むを得ず」といった消極性が感じられる。

- (122) 京子という名の女の行方をたしかめることが億劫でなかなか果せない、と山田は言うが、自分に話してしまったからには、山田はその思い腰を上げて調べに出かけるだろう。
(「砂の上の植物群」)

主文文末には「当然」をあらわす「必要だ」「べきだ」「ことだ」などの言い方があらわれるのが普通である。

「限り(ハ)」もこれらと同様の意味機能をもつが、「限りにおいては」のように必然性をより限定したものである。主文には「決して」などの意味が含意される。

- (123) この小冊子が送りつづけられる限り、林和があの二人のアメリカ人を決して忘れない仕組みになっている。(「北の詩人」)
- (124) 首相は再訪朝の際、金総書記に「日朝平壤宣言を順守する限り、制裁の発動はしないと述べた。(讀賣04.7.2)

「ナイ限り」のように、否定接続において使用頻度が高い。

- (125) 連続殺人は犯人が逮捕されないかぎり、その「連続性」の真の意味は明らかにならない。
(朝日04.4.6)

- (126) はっきり理由を示さない限り、到底油井は納得しそうではなかった。(「砂の上の植物群」)

(127) いずれにしろ、日本がアメリカの植民地状況から脱出出来ない限り、正常な形での政界再編は実現しないだろう。(「仮面の国」)

連文構造として、「PレバPナイ限りQ」といった形式が見られる。

(128) 七月の参院選を乗り切れば、小泉首相が自ら衆院解散に打って出ない限り、残り任期の二年二ヶ月は国政選挙を気にせず、政権を思い切って展開できる環境が整う。

(読賣04.4.24)

「Sガ、Pナイ限りQ」のように、挿入的、あるいは譲歩的な意図で用いられるケースも特徴的であろう。

(129) こんな夜は酒でも飲んで早寝したいが、頭の上がらぬ病人でもない限り、商売を休むことは出来ない。(「娼婦たちの暦」)

同様に「SでもPない限りQ」のパターンも観察される。

(130) みずほ総合研究所の中島厚志チーフエコノミストはテロ懸念が強まっても「極端にヒトやモノの移動が滞らない限りは景気失速の心配はない」と話す。(日経04.4.11)

このほかにも「ナイコトニハ」「コトナシニハ」などの形式も見られるが、割愛する。

7. 逆接の「テモ」とその周辺

本章ではこれまで述べた条件文に対して、逆接の意味機能をもつ体系をとりあげる。また、取り立ての様相を呈する並列形式についてもふれる。

7. 1 「テモ」の用法

「テモ」に代表される逆接条件は「逆条件」とも言われる。「譲歩」はその一つの典型と見なされる。「テモ」の用法の一つは「家に帰ってもゲームばかりして遊んでいる」のように累加恒常の状態をあらわす。「てからも」「ときも」などにパラフレーズされる。

(131) 自殺した国鉄職員たちは悩みのさなかにあっても、家族には職場の話をしていなかった。ふさぎこんだり、いらいらした様子を問い質しても、じっと沈黙するだけか、せいぜい「疲れているんだ」と言葉少なに答えるだけ。(「死よりも遠くへ」)

一方、「テモ」は「テハ」に対立する形式であるが、同時に「タラ」とも対極にある。

(132) a. 雨が降ったら出かけません。 <タラ否定文>

b. 雨が降っても出かけます。 <テモ肯定文>

「にもかかわらず」という障害を押しでの行為の発動をあらわしながらも、「それほどまでして」という意志をあらわす場合もある。次のように<タラ肯定文>に対して<テモ否定文>もあるが、一般に<テモ肯定文>と比べて習得上困難な傾向が見られる。

(133) a. お金があったら買います。 <タラ肯定文>

b. お金があっても買いません <テモ否定文>

仮定、仮想の「(トシ) テモ」は「タラ」と同様に「もし」をともなうこともある。

(134) もし 生きのびても、自分は一生、自分を信じてはいけないなと思いましたよ。

(「切り取られた時間」)

「ても…くらい」は比較的まとまった大きな副詞句で、一種の比喩的な程度表現である。

(135) ちよの在所は隣家まで大声をあげても聞こえぬほど淋しい村で、平地が少なく、土地が痩せており、そばや稗が常食であった。(「娼婦たちの暦」)

次の「のは当然としても」は譲歩をあらわす典型である。

(136) 医師には不断の猛烈な勉強が求められるのは当然としても、患者さんにも病気の性質の理解が求められる。(日経04.4.11)

「三人寄れば文殊の知恵」といったようなきまった言い方をあえて「テモ」を用いて逆の状況を述べるケースがある。一種のレトリック的用法であろう。

(137) 知の世界では制度、方法は人材を代替せず、三人寄っても文殊にはならない。

(讀賣04.5.28)

また、「テモ」には「思い出してもぞっとする」のように、自発的な意味を含意するものがある。

「てみても」のような気分が背景に感じられるものである。

(138) ただ、クルド人に対する化学兵器を一例とても“物証”の乏しさから、フセイン本人が実際に使用命令を出したことを立証するのは難しいと早くも指摘されている。

(讀賣04.7.2)

「テモ」は「思い出すのも」のような「ノモ」にも隣接している。「テハ」が「ノハ」と近いところにあるのと同じ性質であろう。

逆条件「テモ」には形容詞につきそう場合、やや固定的なものが見られる。

(139) 今、株は一日に多くても六回程度しか売買しないことにしている。

(140) a. 早くても十時には着くだろう。(最大限早く見積って)

b. 遅くても十時には着くだろう。(最大限遅く見積って)

c. 少なくとも十時には着くだろう。

「少ない」は「少なくとも」よりは、一般に「少なくとも」のほうが用いられる。これは文脈によっては「早くても」「遅くても」の双方を含意しうる。

副詞では、「今さら」を使って、反発的な気分をあらわすことがある。

(141) もともと居ないも同様の父である。今更帰って父親面されても懐かしくも嬉しくもない。

(「娼婦たちの暦」)

また、副詞「無理して」をともない、主文文末に「だけだ」を用いて不利益な状況をあらわす。

(142) …体温計で計ると三十八度で、咳が出て鼻がぐずぐずする。こんな状態では無理して出てもまわりに迷惑をかけるだけである。(讀賣04.4.28渡辺淳一「幻覚」)

「ても不思議ではない」は「当然」の事態招来をあらわす一種の文末形式の定型である。

- (143) 首都直下型、南海、東南海なども、専門家が「あす起きても不思議ではない」と警鐘を鳴らす巨大地表だ。(略) …東海地震のような海溝型も、いつ起きてもおかしくない。

(読賣04.6.18)

「テモ」を重ねて、帰結としての結果事態を強調する反復形式がある。

- (144) 粉は拭いても拭いても白く残った。(「北の詩人」)
(145) 死後、十年経っても十五年経ても事情は変わらなかった。(「砂の上の植物群」)

「テモ」の反復のなかには類義性のものの並列形式のほか、人口に膾炙した言いまわしも少なくない。

- (146) 耳を覆っても、頭を振ってもトタンの鳴る音を消すことはできない。(「娼婦たちの暦」)
(147) 明けても暮れても雪が降りつづけ、切り立つ断崖に打ち当たる波のとどろきや、風のうなりや、風にざわめく樹々の音が町中をみたしていた。(「娼婦たちの暦」)

「テモ」には「VてもVきれない」「VてもVたりない」「VてもVあきない」のような不可能をあらわすパターンがある。一種の緊縮句表現である。

- (148) 林にとっては悔やんでも悔やみきれない本塁打も、貴重な経験になるはずだ。

(読賣04.5.14)

ほかにも同一動詞を繰り返して「テモ」を強調したものに「VニV(可能形ナイ)」のパターンがある。前項は「笑おう」「泣こう」のように意志形になることもある。

- (149) a. 笑うに笑えない、笑おうにも笑えない : 笑おうと思っても笑えない
b. 泣くに泣けない、泣こうにも泣けない : 泣こうとしても泣けない

このなかには「越すに越せない」「やむにやまれぬ」のように慣用化したものも散見される。

「ほどでなくても」は「ほどではないにしても」のような形にもなるが、「～くらい～でなくてもいいが」という婉曲的な表現である。

- (150) a. Eさんほどでなくても、私も立派にピアノが弾けるようになりたい。
b. 病院に行くほどではないにしても、うつを抱えている人はけっこう多い。

「といっても」は前提情報を受けながら、例示的に別件の主張を呈する。

- (151) 国産の牛といっても、米国の土地に養われているようなものだ。(朝日04.5.20)
(152) 不良債権の処置にめどが立ったと言っても、国から注入を受けた巨額の公的資金によって大手銀行が支えられている状態に変わりはない。(読賣04.5.25)

「といっても」が接続語のように用いられ、前文で言い切られた内容の一部を判断留保したり、翻したりする一種の談話制御的な用法がある。次は「わけではない」との共起文である。

- (153) そしてその獣道のような通路さえも行き止まりになるかと思われるあたりに、大きな岩が立ち塞がっており、その蔭に水が湧いていた。と言っても釣師はそれらの光景を明瞭に見た訳ではない。只彼の記憶と同じような気配を確認しただけである。

(「切り取られた時間」)

「と(は) ippitemo」は「とはいえ」「とはいうものの」などのバリエーションがある。

「テ」には「知っていて教えない」のように逆接を含意するものがある。「カラトイッテ」もこうした弱い逆接の意味をになうケースである。文末には「わけではない」のほかにも否定による一定の主張形式をとまなう⁷⁾。

(154) 前夜、二時、三時まで仕事をしていても、六時か七時にふいと目覚めることがある。もっとも目覚めたからといって、そのまま起きるわけでもない。しばらく床のなかでとりとめのないことを考えて、またいつのまにか眠る。(「愛のごとく」)

(155) 「一人で待たされたからといって、なにも男と寝てくることはないだろう」(「愛のごとく」)

(156) 思うのは勝手だからといって、こんなことばかり思っていると、自分で自分をしばってしまうことになる。(「二十三の戦争短編小説」)

(157) しかし、ローンの契約をしたからといって、勤勉になどなれるものではない。むしろ私は、いっそう怠惰になった。(「二十三の戦争短編小説」)

(158) ちよは今になって思い知った。しかし、勤めの内容がわかっていたからといって、それを拒むことは出来なかつただろう。(「娼婦たちの暦」)

(159) 建物が壊れたからといって、その借金が帳消しになるわけではない。ローンは支払い続けなければならない。(讀賣04.6.18)

「テモ」の主要な用法に「としても」「にしても」がある。「(たとえ) としても」は仮の想定をあらわす。主文には事態の不変なさまが示される。

(160) 米国が金融政策の転換に踏み切ったとしても、日本が直ちに追隨する環境にはならない。(讀賣04.4.30)

(161) 連戦主席らは…選挙そのものを無効とする訴えも準備しており、再集計の結果が出たとしても、それをそのまま受け入れるかどうかは不透明だ。(朝日04.3.31)

次は立場、資格をあらわす「として」の「も」による累加的な取り立てである。

(162) 中韓関係は両国との相互依存関係を深める日本としても、無関心ではいられない。(讀賣04.8.25)

この場合、「といたしましても」のような丁寧形もしばしばあらわれる。「としても」がやや書き言葉的であるのに対して「にしても」は口語的である。

(163) 未納・未加入問題で揺れた年金制度の将来を論じるにしても、その基本には相互に支え合う精神が欠かせない。(讀賣04.7.2)

(164) ホッジが李承晩、金九などのいわゆる右翼の肩をもっているにしても、その理由で右翼陣営を追い出す口実にはならない。(「北の詩人」)

「にしても」の特徴の一つに「としても」には見られなかつた並列形式がある。

(165) 「小説にしても、あなたのやっってらっしゃる詩にしても直接に人民の感情に訴えますからな。これは強い。(略)」（「北の詩人」）

「にしても」の可展的な接続詞としては、「それにしても」があるのに対し、「それとしても」は非用である。これは次のような文脈において成立する。

(166) それはそれとしても、それはそうだとしても、……

7. 2 「コソスレ」「トコロデ」「ヨウト(モ)、ヨウガ」

「コソスレ」は「こそ」によって条件因子を取り立てると同時に、逆接の意味をいっそう明確に主張する用法である。

(167) a. 失敗こそすれ、成功することはない。

b. 負けこそすれ、勝つことはない。

「XことはあってもYことはない」という意味で、主文の恒常性を主張するものである。この場合、前件の動詞は連用形になるという特徴がある。

「トコロデ」もまた逆接の一種の強調形式である。「いまさら」「どうせ」などの副詞をとまなうことが多い。主文では見越した結果事態における話し手の諦念をあらわす。

(168) a. いまさら出かけてみたところで、どうせ間に合わないだろう。

b. いくら忠告したところで、彼は話を聞くような人間ではないだろう。

次は主体の諦念ではないが、変わることはない常態をあらわす。いずれにしても主文には否定表現をとまなうのが特徴である。

(169) 妻は幹子の住所も電話番号もきかないし、たとえきかれたところで風野は教えるつもりはなかった。（「愛のごとく」）

「ヨウトモ」は「ヨウト」の形でも用いて、一般に仮定条件や無条件をあらわす。

(170) a. たとえ断られようと、私は社長に頼んでみるつもりです。

b. いくら殴られようと、男はまた平気で向かっていった。

「ヨウト」は「ヨウガ」とも類義的で書き言葉的であり、並列形式をなしながら常態を主張することも多い。

(171) 雨が降ろうと風が吹こうと、母が仕事を休む日はなかった。

cf. 雨が降ろうが風が吹こうが、…

7. 3 「テデモ」「テマデ(シテモ)」「ナイマデモ」

一般に逆条件といっても文意によっては強弱が見られ、その表現意図はかなり複雑な様相を呈している。ここでは「テデモ」「テマデ」「ナイマデモ」などの用法を瞥見する。すでに田中(2004a)でも詳しく議論したものだが、見落としの点も含めて再検証する。

「テデモ」は手段の取り立て、強調の二種類が認められる。

- (172) a. そのあたりで、コーヒーを飲んででも行きませんか。
b. 家を売ってでも、新しいところに越したい。

(172) a. のような任意の取り立ての場合は、

- (173) そのあたりで、コーヒーでも飲んで行きませんか。

のように名詞につきそうこともあり、むしろその方が自然な印象を受ける。この双方の意味の異同については、「テレビばかり見ている」と「テレビを見てばかりいる」、「お金さえあれば」と「お金がありさえすれば」のような移動現象と合わせて再考する必要がある⁸⁾。

ここでは手段の取り立ての用法を実例にそってみていこう。

- (174) 聖司は無理をしてでも甲陽園に帰ったほうがよさそうだった。

(読賣04.9.1宮本輝「にぎやかな天地」)

- (175) 他人を蹴落としてでも列車に乗ろうとする人々は殺気立っていて、自分たちもとにかく死に物狂いで列車につかまっていた。(読賣04.5.18宮本輝「にぎやかな天地」)

- (176) あらゆる犯罪が何らかの形で時代と社会の影響を受けているのだとすれば、社会はその責任において、より真実に近い動機を探求し、場合によっては創作してでも共有できる動機を見つけなければならない。(「仮面の国」)

- (177) 人生は短く一瞬の風のように。だからこそ人生を祝い、犠牲を払ってでも楽しみを享受することが大事。(読賣04.7.2)

「テデモ」と似て非なる用法に、「テマデ」がある。

- (178) a. 他人を蹴落としてでも出世したいのか。
b. 他人を蹴落としてまで出世したいのか。

ただ、「テマデ」は「テデモ」と比べて後文に否定をとめないやすい傾向がある。

- (179) a. ??他人を蹴落としてでも出世したくはない。
b. 他人を蹴落としてまで出世したくはない。

「ようとは思わない」などの否定文末表現とも共起しやすい。「テマデ」は「テマデシテモ」とほぼ同義であるが、後文には「なぜ」などの文がきやすいのが特徴的である。

- (180) 私たちは人助けと思って大金を貸してやったんだけど、おまえをおさえつけてまで客をとらず気はないんだよ。(「娼婦たちの暦」)

- (181) サバテロ新政権が「テロへの屈服」と米国などから批判されてまで部隊のイラク撤退を急いだのはなぜか。(朝日04.5.20)

- (182) 小宮は自分の肉体を賭けてまでその石と取組むだけの何かの理由があるのだろうか。

(「強力伝・孤島」)

- (183) 勤め先でおびたしい鶏にとりかこまれているので、部屋に帰ってまでまだ羽と翼をもつ生き物を見るのは鬱陶しく、魚以外は考えられない。(「仮釈放」)

「テマデ(モ)」は「テデモ」とくらべて、連体修飾にした場合、より自然である。

(184) 借金をしてまでギャンブルにのめりこむ人に、私は同情しませんが、… (讀賣04.9.15)
この場合、「テデモ」を用いると、若干許容度が落ちるようである。

(185) ?借金をしてでもギャンブルにのめりこむ人に、私は同情しませんが、…
次に否定形に「まで」がつきそう、「ナイマデモ」の用法を見てみよう。

(186) 短期間に七人の子どもが虐殺されている現状であれば、殺されないまでも多くの子どもたちが、凄まじい虐待を受けていると考えて当然だ。(「仮面の国」)

(187) 岩木は、その居残り組のひとりひとりおどして、自分の配下につけていった。配下につけないまでも、帰りにおどかされるのがこわくて、居残りをやめる子供たちもいた。

(「鳥の影」)

「ナイマデモ」は「ナクテモ」とほぼ同義である。「そこまでの程度には達しないが」という気分を残しながら、それに近い状況が呈示される。

(188) 東北の飢饉は人肉まで食った天明・天保まで遡らなくても、明治二年、三十五年、四十五年、大正には二年、十年、そして昭和にはいつてからも、六年、九年と続いている。

(「娼婦たちの暦」)

7. 4 逆接と並列機能

逆条件には各様の並列形式が観察される。ここではパターン化したものをあげる。

<S 1 ヨウト S 2 ヨウト>、<S 1 ヨウガ S 2 ヨウガ>

(189) a. カレーを作ろうとシチューを作ろうと、俺の自由だろう。

b. 先生に逢おうが友だちに逢おうが、私の勝手でしょう。

これらは疑問詞 (不定詞) を用いて全面肯定文としてあらわすことができる。

(190) a. 何を作ろうと、俺の自由だろう。

b. 誰と会おうが、私の勝手でしょう。

<S 1 ヨウト S 2 マイト>、<S 1 ヨウガ S 2 マイガ>

(191) a. 参加しようとしまいと、君の不利益になることはない。

b. 発表しようが発表しまいが、今の実績には変わりないだろう。

これらもまた疑問詞 (不定詞) を用いて全面肯定文としてあらわすことができる。

(192) a. いくら参加しようと、君の不利益になることはない。

b. 何を発表しようが、今の実績には変わりないだろう。

<S 1 デアロウト S 2 デアロウト>、<S 1 デアロウガ S 2 デアロウガ>

これらはおよそ次の三つのタイプが観察される。「デアロウガ」も同様である。

(193) a. 横綱であろうと大関であろうと、負けるときは負ける。

b. 横綱であろうと何であろうと、負けるときは負ける。

c. 横綱であろうと (横綱で) なかろうと、負けるときは負ける。

<S 1ニシロS 2ニシロ>、<S 1デアレS 2デアレ>、

「ニシロ」は単独でも用いられるが、通常は肯定・否定の並列形式をとる。

(194) 行くにしろ行かないにしろ、説明会には全員参加してください。

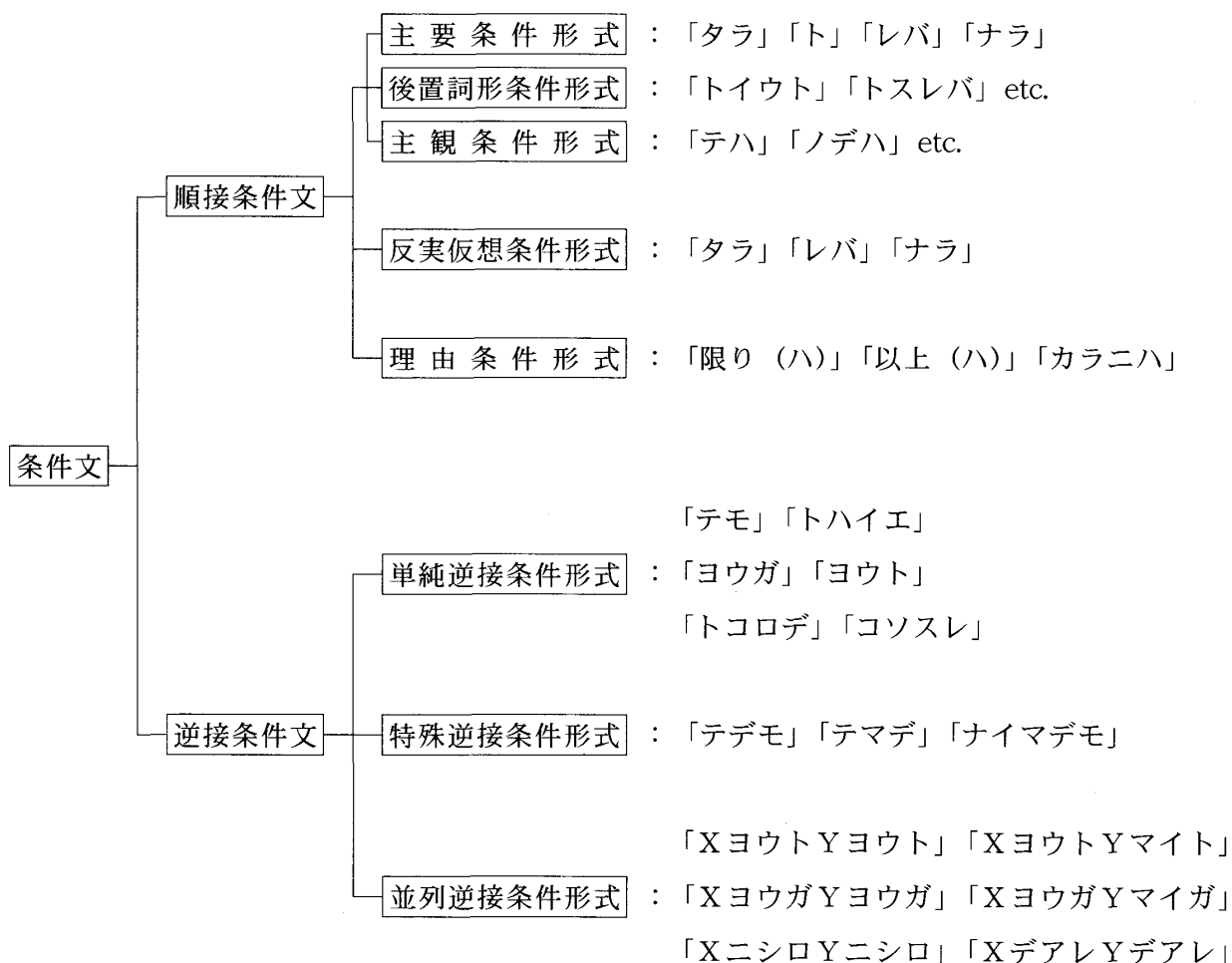
書き言葉、あるいは使用する世代や場面などの位相が顕著である。

(195) 行くんであれ、行かないんであれ、連絡はしないとイケない。

これらの反復並列のあらかず発話意図については、場面や談話的な展開もふくめて考察を深める必要があるが⁹⁾、ここではその輪郭だけにふれておくことにしたい。

8. まとめ

本考察では条件文を次のように整理、体系化した。



これらの個々の形式について今後、それぞれ詳細な検討を行っていく予定である。一方、主として「タラ」「ト」形式には「とき」、「際」、「場合」、「たび」などの表現との交渉、重なりが見られるが、これら広範の時間節の態様についても別途、詳細な研究をまたなければならない。

多様な副詞節において条件節の機能的特徴は当該文を越えた研究手法もまた要請される。いわゆる複合条件文（「タラ」と「テモ」を含む条件文など）についても連文的な観点からの研究に今後は関心が持たれるであろう。さらに言語行為の角度からも今後は英語をはじめ諸言語との対照研究の進展によって、日本語条件表現の普遍性、個別的特徴の研究がさらに進展することが期待される。

附記：本稿の内容の一部はまた英国国際教育研究所主催講演会「私の日本語研究と日本研究—アジアの日本語教育の経験と現状—」（27th Sep. 2004）、また英国日本語教育学会および国際交流基金ロンドン日本語センター主催によるワークショップでの講演「複文研究と日本語教育」（23rd Oct. 2004）において紹介された。本研究は平成16年度海外長期研究の成果の一部をなす。

注

- 1) たとえば、有田・蓮沼・前田（2001）では「条件表現」のなかに「原因理由」、「目的」などの複文を含めている。
- 2) なお、「タラ」には時間節との重なりが見られるケースも少なくない。
今度京都に来たら泊って行ってください。（；来た時は）
空港に着いたらパスポートがないことに気づいた。（；着いてから）
- 3) 「ト」形式には「お酒を飲むと顔が赤くなる」といった生理的な変化局面や、人的な制御が困難な自然的変化、機械的变化なども見られる。田中（2004a）ではこうした特徴を「仕組み」の呈示として把握した。警告はその派生的な特徴でもある。
- 4) 「P1レバP2トQ」などの二重条件文についてはこれまでほとんど手のつけられていない領域である。なお、「P2トQ」においては「P2レバいい、P2トいい」などのコンパクトな条件表現が置かれる傾向が一部において見られる。
- 5) 「ト」形式にも「レバ」の対比的用法が観察されることもある。一般に「ト」形式のほうが「レバ」に見られる経験的な省察に対して現象的であり、臨場感をともなう。
魁皇はまわしにこだわらず、前に出て玉乃島を寄り切ると、千代大海も旭天鵬を引き落とし、ともに連敗を免れた。（讀賣04.9.17）
- 6) 条件形後置詞には「タラ」「ト」「レバ」に集中的に観察され、「ナラ」には少ないといった分布が見られる。こうした点も「ナラ」の特徴を考える際の材料となる。これらのほか、条件形においてもとの動詞の実質性を残したものに、「と比べると」「に比べれば」「を除けば」「に従えば」などがある。
公表された新五千円冊は二〇〇二年に発表された見本と比べると、全体の色調が明るくなり、一葉のまゆ毛や目がやや細くなった。（讀賣04.6.18）
- 7) 田中（2004b）などを参照。なお、「カラトイッテ」に関しては原因理由表現、引用表現の角

度からも「から」「からと」「とって」などと合わせて別途、論考を準備中である。

- 8) 「テデモ」などの背景にある意志性は、条件表現一般を考える際の重要なファクターである。同時に主文の否定文脈との生起条件についても今後検討が必要である。
- 9) これらの反復並列はもはや逆接の意図からはなれ、一種の選択・取り立ての様相を呈しているが、その機能の詳細については「XナリYナリ」、「XダノYダノ」、「XトイイYトイイ」などと合わせて体系的な意義付けが求められる。

【用例出典】

下記の出典のないものは筆者の作例による。

柴田翔『鳥の影』(新潮文庫1974)、曾野綾子『切り取られた時間』(新潮文庫1975)、松本清張『北の詩人』(角川文庫1983)、渡辺淳一『愛のごとく』(新潮文庫1984)、日野啓三『夢を走る』(中公文庫1987) 津村節子『娼婦たちの暦』(集英社文庫1988)、新田次郎『強力伝・孤島』(新潮文庫1988)、吉村昭『仮釈放』(新潮文庫1988)、水上勉『母一夜』(新潮文庫1988) 吉岡忍『死よりも遠くへ』(新潮文庫1989)、吉行淳之介『砂の上の植物群』(新潮文庫1990)、柳美里『仮面の国』(新潮文庫1998)、古山高麗雄『二十三の戦争短編小説』(文春文庫2004)、その他新聞、雑誌など。

【参考文献】

- 高橋太郎 (1983) 「条件形をともなう後置詞化」 渡辺実編『副用語の研究』明治書院
- ワッター、サワリー (1984) 「日本語の条件表現 その意味・用法」 『言語学論叢』3号筑波大学 p46-61
- 有田節子 (1991) 「日本語の条件表現と叙述の特定性という概念についての一考察」 『日本語・日本文化』17号 大阪外国語大学 p97-111
- 江田すみれ (1992) 「複合辞による条件表現Ⅱ: 「と」「とすると」「となると」の意味と機能について」 『日本語教育』78号 日本語教育学会
- 益岡隆志編 (1993) 『日本語の条件表現』 くろしお出版
- 多門靖容 (1994) 「複文を形成する「~と思うと」の用法について」 愛知学院大学文学部紀要23号 p95-99
- 金恩希 (1995) 「確定条件を表す「と」と「たら」」 Nidaba ニダバ 24号 西日本言語学会 p143-150
- 大野裕 (1996) 「日本語の反実仮想条件文と時制解釈」 『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』6号 p15-28
- 李仁揆 (1999) 「逆条件文における従属句節と主節の事柄的關係について」 『日本語学研究』創刊号 韓国日本語学会 p153-168

- 亀田千里 (2000) 「条件形式による注釈節について 実例調査をもとに」『筑波応用言語学研究』
7号 p43-55
- 森山卓郎 (2001) 「推量形式と条件節」『日本語日本文学の研究』前田富祺先生退官記念論集
前田富祺先生退官記念論集刊行会編
- ヘイズ高野園・新里瑠美子 (2001) 「条件の接続助詞から談話・対人機能の助詞へ タラの文法
化」 南雅彦・アラム佐々木幸子編『言語学と日本語教育』 くろしお出版
- 北沢尚 (2001) 「条件表現形式「限り」の文法記述」東京学芸大学紀要2人文科学52 p37-45
- 藤井涼子 (2001) 「社説・コラムにおける「P以上Q」文の用法 行為の必要性を述べる文と必
然的な状態、働きを述べる文」『同志社国文学』54号 p123-135
- 小林典子 (2001) 「条件文と述語のコントロール性」『文芸言語研究』言語篇39号 p61-71
- 林偉煌 (2001) 「中国語条件表現における助動詞“会”の役割 日本語から中国語に翻訳する際
の問題点から」『言語文化学』10号 大阪大学 p89-102
- 有田節子・蓮沼昭子・前田直子 (2001) 『条件表現』日本語セルフマスターシリーズ7 くろし
お出版
- 増倉洋子 (2002) 「論説文体における「～ば」の記述的研究 論説文体における「ば」の分類の
試み」“Polyglossia”6号 立命館アジア太平洋大学 p47-54
- 益岡隆志 (2002) 「条件表現」野田尚史・益岡隆志・佐久間まゆみ・田窪行則著『複文と談話』
日本語の文法 4 岩波書店 p73-92
- 加藤理恵 (2003) 「逆接を表す『ところで』の意味記述」『世界の日本語教育』13号 国際交
流基金日本語国際センター
- 田中寛 (2004a) 『日本語複文表現の研究 接続と叙述の構造』白帝社
- 田中寛 (2004b) 「否定文末形式の意味と機能」『講座日本語教育』第40分冊 早稲田大学日本語
研究教育センター p59-92

(2004年9月22日受理)